Nippon Electronic Device Industry Association

NEDIA MAGAZINE

日本電子デバイス産業協会誌

2013 Winter 創刊号

巻頭言

日本電子デバイス産業協会 発足にあたって
～ 社会のコメを目指して ～

一般社団法人日本電子デバイス産業協会

キックオフ

全冊特集

NEDIA 設立とともに

どんなにつらくても日本人なら胸をはれ !!
どんなに負けていても日本人なら見事な戦いを見せてやれ !!
～ 時代の必然性による NEDIA の誕生 ～

JASVA の 13 年間とこれからの活動

日本半導体エンジニアリングネットワーク協会の 10 年、そして将来へ

NEDIA 発足と期待

NEDIA 一般社団法人 日本電子デバイス産業協会

NEDIA MAGAZINE 第1号 2013 Winter

© NEDIA 2013年 冬 本誌掲載の写真、図表および記事の無断転載を禁止します

CONTENTS

P3 巻頭言

日本電子デバイス産業協会（NEDIA）発足にあたって～社会のコメを目指して～

齋藤 昇三
一般社団法人 日本電子デバイス産業協会 代表理事・会長
（（株）東芝 常任顧問）

P4 全冊特集／NEDIA 設立とともに

**どんなにつらくても日本人なら胸をはれ！！
どんなに負けていても日本人なら見事な戦いを見せてやれ！！
～時代の必然性による NEDIA の誕生～**
泉谷 渉
NEDIA 副会長（（株）産業タイムズ社 代表取締役社長）

P6 **JASVA の 13 年間とこれからの活動**
佐藤 和樹
NEDIA 副会長／ JASVA 部会長（（株）インターテック 代表取締役）

P8 **日本半導体エンジニアリングネットワーク協会の 10 年、そして将来へ**
和田 悟
「NEDI 理事／ JSENA 部会長／関西 NEDIA 副代表（セミリンクス 代表）

P10 **NEDIA 発足と期待**
佐藤 中則
NEDIA 理事／ JAST 部会長（（株）野毛電気工業 代表取締役社長）

P12 **一般社団法人日本電子デバイス産業協会（NEDIA）キックオフ**
NEDIA 事務局

P13 **NEDIA 会員リスト＆ NEDIA スケジュール**

表3 **Information**

巻頭言

日本電子デバイス産業協会（NEDIA）発足にあたって ～社会のコメを目指して～

（一社）日本電子デバイス産業協会　代表理事・会長
（株）東芝　常任顧問
齋藤 昇三

齋藤 昇三（さいとう しょうぞう）

1950年7月岐阜県岐阜市で誕生。
1973年3月早稲田大学理工学部応用物理学科を卒業後、同年4月に株式会社東芝に入社。同年8月に東芝総合研究所に配属され、メモリの研究開発に従事。1979年に東芝半導体事業部の半導体技術研究所に異動、DRAMの開発に従事。1990年に半導体システム技術センターに異動、メモリ応用技術に従事。1998年より2年間渡米し、東芝アメリカ電子部品社で技師長として従事。2000年4月に復職し、メモリ事業部DRAM統括部長に就任。2002年4月にセミコンダクター社メモリ技師長となり、2004年5月、セミコンダクター社メモリ事業部の事業部長に就任。2006年4月よりセミコンダクター社副社長、ならびに2006年6月、執行役常務に就任、メモリ事業部長を兼務する。2007年6月より執行役上席常務、セミコンダクター社社長に就任。2010年6月、執行役専務就任。電子デバイスグループCEOを担当。2012年6月代表執行役副社長に就任。2013年6月執行役を退任し、常任顧問に就任。

このたび、新たに発足しました一般社団法人日本電子デバイス産業協会（NEDIA）の初代の代表理事　会長に就任しました。本協会がますます発展するよう精一杯頑張ります。

半導体産業における日本企業の世界シェアは低下を続け、近年では米国企業と台頭するアジア企業の陰で、その存在感は相対的に激減しています。半導体売上高を見ると世界全体では伸長していますが、日本は90年代後半からほぼ横ばいを続けています。1988年、世界における日本のシェアは50%を超えていましたが、昨年は18%まで低下してしまいました。この原因は何か、何が悪くて、何が足りなかったかを我々は徹底的に分析する必要があります。私はこの要因のひとつに業界としてのまとまりに欠けていた事とビジネスモデルの進化のスピードに乗り遅れた事だと反省しています。

一方、日本政府が描く経済成長戦略のなかで半導体業界の果たす役割は重要であると言われています。そのためにも日本の半導体産業を再興させる必要があります。また、この問題は半導体デバイスメーカーだけでなく、製造装置メーカーや材料メーカーも含めた電子デバイス業界全体として取り組む必要があると考えます。製造装置や材料が日本国内ですべて揃うという強みを生かすべく、何をすべきかを考え、実行に移して行きたいと考えます。

また、スマート社会に向けたアプローチも必要だと考えます。社会的課題の解決に取り組むスマート社会では、情報のビックデータ化やセキュリティ確保に対応するICT、ストレージ技術、災害対応や安全インフラを実現するための安心安全対策、スマートグリッドやスマートハウスを実現するエネルギー関連事業、クラウドコンピューティングの活用やセンサー技術の活用による医療、歩行者検知で安全運転を制御する交通システムの構築等のテーマがあります。このアプリケーション領域では必ず半導体デバイスをはじめとする電子デバイスが必要となってきます。我々はこの情報をいち早く取り入れて事業化をする必要があります。

NEDIAの設立趣旨はデバイス～装置材料～アプリケーションに関わる企業　団体を巻き込んだ横断的な組織として、オールジャパン体制で異業種の有機的な連携を進めることを最大の使命とします。特に、大手企業が集まり政府と協議するような業界団体をトップダウンの組織と呼ぶなら、NEDIAは草の根運動を展開するボトムアップの組織を目指します。トップダウンとボトムアップがバランスよく協調することにより、最も効率的な業界活動をすることが出来ると考えています。

NEDIAは従来の業界団体とは異なり、成長が期待されるあらゆる最終製品の出口を捉え、それに必要な半導体などの電子デバイス、それを作るための装置、また必要な材料までを横串にしていく、電子デバイス産業の川上から川下にわたる横断的戦略組織です。この流れに沿うかたちで会員　組織を拡大していき、新たな日本の成長分野を切り開いていきます。

NEDIAが手がけていく最も重要な事業が「協業加速機会の提供」です。医療、航空宇宙、ロボット、次世代環境車、再生可能エネルギーといった新アプリの研究開発を横断的に加速しつつ、産業の未来像を探り、シナリオの策定やマーケティング機能も担い、オープンイノベーションの創出を促進していきます。かつて半導体は産業のコメといわれました。今日にあって私は「半導体をはじめとする電子デバイスはまさに社会のコメになる」と宣言します。

会員の皆様には本協会に対してご理解とご支援の程宜しく御願い致します。

どんなにつらくても日本人なら胸をはれ！！ どんなに負けていても 日本人なら見事な戦いを見せてやれ！！

～ 時代の必然性によるNEDIAの誕生 ～

NEDIA副会長
（株）産業タイムズ社　代表取締役社長　**泉谷　渉**

「世界のITハードにおける我が国の後退ぶりは眼をおおうものがある。テレビ　パソコン、ケータイ　スマホなどの主力製品分野で大きく負け続けている。また巻き返しに向けての展望も開けないという有様だ。これだけの危機にさらされながら、それでも日本のIT業界は一致団結が図れない。小さいシェアをむさぼるように日本勢同士で食い合っている。」

こう嘆くのは半導体アナリストとして著名な南川明氏である。しかしながら　筆者は必ずしも我が国の電子産業が弱いとは思っていない。

なぜなら、電子回路基板や一般電子部品の分野は日本勢が世界トップシェアを死守しているからだ。液晶産業についても　台湾　韓国に大きく引き離されているが、中小型ディスプレイでは世界№1の技術と量産を誇っており　次世代有機ELの開発においても先行している。

ところで　かつて世界の頂点に君臨した日本の半導体産業は、世界2位（シェア16%）を保持しているとはいえ米国に大差をつけられ、韓国　台湾などアジア勢の急追を受けている状況だ。エルピーダメモリは経営破たんしてマイクロンに買収され、多くの半導体メーカーが苦戦を強いられている。一方で、CMOSセンサーではソニーが世界首位に立ち、今後の大型投資実行でウエハー能力倍増の12万枚を計画し、さらなるシェア拡大を狙っている。

また、環境エネルギーや家電の分野で活躍するパワー半導体のIGBTにおいても三菱電機、富士電機などの日本勢が世界シェアの75%を押さえている。LEDでは日亜化学工業が世界トップを走り、車載マイコンではルネサスが世界トップのシェア40%を保有。東芝はNANDフラッシュメモリーでサムスンとトップ争いを演じるだけでなく、次世代メモリーのMRAMにおいても世界最先行の量産技術を確立している。ニッポン半導体はこうした個別の戦いぶりを見れば　決して負けてはいない。

しかして　最大の問題点は日本勢の個別の強みが有機的に結合されることなくバラバラになっているため、大きな戦いの勢力を結集できないことにあるのだ。また、日本全体の成長戦略の将来像は全く描けておらず、どの方向に向かっていくというロードマップも示されていない。

世界的に見てもITはもはや限界成長率に達していることは明らかなのだ。このため、電子デバイス全体の次の方向性を見つけていく戦略組織が今こそ必要になってきている。マーケティング戦略なき戦いはコンパスなしで海路に出るのに等しく　ニッポン電機産業はこの点で外国勢に多くの遅れをとっている。

▲泉谷 渉氏

日本電子デバイス産業協会（Nippon Electronic Device Industry Association＝略称NEDIA）は、こうした状況下においてニッポンのデバイス産業の羅針盤を示す機関として誕生した。いわば時代の必然性がNEDIAという新団体に結びついていったのだ。設立総会は9月30日（月）に東京　茗荷谷の林野会館において行われた。

NEDIAの代表理事　会長に選出された齋藤昇三氏は、日本のエレクトロニクスの最大団体であるJEITAの半導体部会のトップであり、かつ半導体大手数社に東京エレクトロンを加えた半導体産業研究所のトップも兼任している。新生NEDIAを率いる力強いリーダーとして格好の存在であるといえるだろう。同氏はこの6月まで東芝副社長の要職にあり　半導体部門のトップであった。現在は常任顧問の任にあるが、多くの電子デバイス関係者の声に応えるかたちでNEDIAのリーダーに就任したのだ。

「NEDIAは単なる業界団体ではない。成長が期待されるあらゆる最終製品の出口を捉え、それに必要な半導体などの電子デバイス、それを作るための装置、また必要な材料までを

横串にしていく戦略的組織だ。この流れに沿うかたちで会員組織を拡大していき　新たな日本の成長分野を切り開いていく」(齋藤会長)

さて　NEDIAの母体となる組織は、一般社団法人の日本半導体ベンチャー協会（JASVA）である。JASVAは2000年の発足から13年間にわたり、多くの関係者の支援を取り付け、様々な活動を展開してきた。これが名称変更し、NEDIAに生まれ変わったのだ。この新生NEDIAには、NPO法人日本半導体エンジニアリングネットワーク協会（JSENA）および日本半導体部品工業会（JAST会）の2団体が合流し、さらに　日本EDAベンチャー連絡会（JEVeC）も合流したのだ。4団体統合による新組織であり　当初は約200社での旗揚げとなるが、数年内には500社まで拡大していく。我が国最大の会員数を持った電子デバイス関連の横断的、戦略的、そして草の根運動的な組織として様々な活動を行っていく考えだ。

記者会見の後で開催されたNEDIAキックオフパーティーには多くの関係者が参列した。電子情報技術産業協会　日本半導体製造装置協会　日本電子回路工業会　日本半導体商社協会、半導体産業人協会　半導体理工学研究センターなど様々な電子デバイス関係者の代表が一同に集結した光景は、まさに壮観であった。

齋藤会長がいみじくもコメントされたようにNEDIAは草の根的組織であり、ボトムから立ち上げていく運動論を重視している。その主役は、地方で戦う中小企業の皆さんであり　熱き夢に燃える若きベンチャーたちの群れであり　もちろん大企業にあっても断固たる改革を願う有志の方々なのだ。そうした多くの力を結集して　新たなデバイス産業の将来設計図を描いていくことが主眼の目的となる。

また、NEDIAの特徴は半導体産業だけに絞っていないことだ。対象となる会員の方は電子デバイス産業全体であり、積層セラミックコンデンサ　スイッチ　コネクターなどの一般電子部品にかかわる人たち、また有機EL、液晶などの電子ディスプレーなどにかかわる人たちも対象になってくるのだ。もちろん、太陽電池、燃料電池、リチウムイオン電池といったエネルギー　電池関連の方々　電子回路　実装に連なる方々など、幅広い分野での結集を呼びかけている。また一方で、電子デバイスの出口となる成長産業についても会員の拡大を進めていく構えだ。

実際論としては次世代環境車、宇宙航空産業、医療産業、環境エネルギー　ロボット産業、次世代IT産業をトータルカバーし　開発およびマーケティングで先行する仕組み作りを、NEDIAは提案していくのだ。具体的な活動としては、ベンチャー育成、人材教育支援、技術開発協調、商談マッチング、セミナー　カンファンレンス　展示会などに幅広く展開していく計画を立てている。

時あたかも我がニッポンには大きな目標となる大イベントがやってくる。それは2020年、56年ぶりの東京オリンピック開催だ。前回の東京オリンピック開催の1964年(昭和39年)という年は、新幹線が開通し　首都高速ができ上がり　日本の戦後経済が復活したことを世界にアピールする年であった。そしてまた　鉄鋼、造船、化学繊維、非鉄金属、石油化学などの重化学工業が世界ステージに出ていった年でもあった。ところがこうした重化学工業はその後一気に凋落し　長い低迷の時期を迎える。

ところが、である。再びの東京オリンピック開催を迎えるにあたって　東レは炭素繊維で世界を制し、新日鉄住金は復活の萌芽を見せ始め　旭化成は人工腎臓で世界トップクラスにあり　古河スカイはLNG船の厚板アルミで世界水準にある。なんと56年ぶりに日本の重化学工業が再びマウンドに戻ってきたのだ。これらは皆、創業100年という老舗企業であり、日本の伝統の技を最先端技術に切り替えて　今日もまた世界の最前線で戦っている。そして、東京オリンピックを起爆剤に、すべての産業がニッポン復活ののろしを上げてもらいたいと切に思う。とりわけ　悲願ともいうべきはニッポン電機産業の復活なのだ。

それにしても、1964年のオリンピックと2020年のオリンピックは日本を取り巻く情勢がまったく変わってしまっている。高度経済成長の頂点ともいうべき昭和30年代の終わり　国民の夢を賭けるかたちで東京オリンピックは開催された。それから80年代末までの20年間を日本人はひたすらに疾走し　バブルとも言うべき好景気に酔いしれていった。2020年のオリンピックについては、とてもではないが当時の勢いはない。少子高齢化でジジババになった日本がそれでも頑張るぜ　と歯を食いしばってやるオリンピックなのだ。

エレクトロニクスの世界においても敗走に次ぐ敗走を重ねていくなかで、次の東京オリンピックがやってくる。パソコンも携帯電話もテレビもはたまたスマホも　なんら世界の主導権をとれずに敗残者となったニッポンに、それでもオリンピックがやってくる。

「2020年の東京オリンピックに向けて今こそ　8Kタイプのスーパーハイビジョンテレビ開発と量産に向けて日本勢は先行しろといいたい。2016年のリオデジャネイロはおそらく4Kテレビの時代の幕開けとなるだろう。そして来るべき東京オリンピックの時こそ8Kテレビが開花する。日本の電機産業の巻き返しはこの2020年にかかっているといっても言い過ぎではない」(国内大手IT関係者)

今や　すべての国内の電子デバイス関連企業に檄を飛ばしたい。オールジャパンの戦いに結集せよ！！どんなにつらくとも日本人なら胸を張れ！！どんなに負けていても日本人ならみごとな戦いを見せてやれ！！

JASVAの13年間とこれからの活動

NEDIA 副会長／ JASVA 部会長
（株）インターテック　代表取締役　**佐藤 和樹**

JASVA 設立 13 年を振り返って

2000 年 10 月に任意団体として発足した JASVA の設立趣意書に以下の記述がある。

「　　我が国においてはこの分野で垂直統合型の産業構造が続き、ベンチャー企業の台頭は遅れていた　　すでに半導体やディスプレーおよびその関連産業の分野において、300 社以上の国内ベンチャー企業が事業活動を展開しており、その企業群を横断的にネットワークすることが強く望まれている　　」。

それから 4 年後の 2004 年 11 月に社団法人として生まれ変わった JASVA の設立趣意書には、「　　我が国の経済と産業が高度な技術に支えられて成長し、電子立国と言われて久しいが、半導体　液晶関連分野においては、自社開発中心の時代から、「選択と集中」の時代へと　国際競争力の優位性を生み出す原動力に変化が生じている。「選択と集中」の結果、専門分野の競争力を持った強者同士が連携し、さらなる競争優位性を生み出す仕組みを、我が国において根付かせることが緊要の課題である。　　設立者一同」。

設立趣意書であるから堅苦しい字面にはなっているが、要するに JASVA として日本の有望なベンチャー企業のネットワークを構築してゆく過程で、「日本企業の垂直型を水平型に移行してゆくべきであり　ベンチャー企業はその専門分野を連携によって強化すべき」とメッセージが進化して来ていると言える。

それから 9 年後の 2013 年 9 月に JASVA が母体となって発足した NEDIA の設立趣意書には、「　　しかして、最大の問題点は日本勢の個別の強みが有機的に結合されることなくバラバラになっているため、大きな戦いの勢力を結集できないことにあり　　中略　　などに FOCUS した産業像の未来を探り　そのシナリオを作り、死に物狂いの開発を協業化し、多くの有機的連携を果たしてゆくための組織として NEDIA は出発する」。

▲社団法人日本半導体ベンチャー協会設立総会（2004 年 11 月 16 日）

▲佐藤 和樹氏

このメッセージは、今だ個別の強みが有機的に結合していない現状を鑑み、「待ったなし」として NEDIA は日本の電子デバイス産業の羅針盤を具体的に示すための戦略組織であると表明した覚悟の趣意書と言える。任意団体 JASVA の設立メンバーの一人として身の引き締まる思いである。

JASVA は任意団体の時代から数えて 60 回以上の理事会を開催しており、日本のベンチャー企業の育成に JASVA として何を支援できるかを議論し、企画し、実行してきたと自負する。様々なセミナー　IR カンファレンス　フリートークサロン　IP ／設計部会、サポートデスク、起業塾、ディスプレイ委員会　高周波　アナログ委員会、産業政策研究委員会などの設立などで会員企業に対しての様々なサービスに加えて、東北、関西、九州各地区では特色ある活動を行ってきた。設立から 13 年間、JASVA は仲良しクラブでもなく互助会でもなく、終始一貫ベンチャー企業へのサポートに徹して活動してきたと思う。

そして、その精神は NEDIA に継承され JASVA 部会として更なる活動の範囲を広げて、日本の電子デバイス産業に関わる企業や協会団体、大学関係や政府に対しても様々な提言をしてゆくつもりである。これまで JASVA に対して多大なサポートをしていただいた賛助会員や各セミナー講師の皆様、他

の半導体関連の協会団体の皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げたい。

▲日本半導体ベンチャー協会設立総会（2000年10月27日）

今後のJASVA部会

失われた10年を取り戻すべく　産官学でもいろんな復活論があり、企業再編や政府主導の何とかプロジェクトや半導体関連の協会でも声高にああだこうだと言われてきたが、何か成功したであろうか？　半導体産業に限って言えば、何一つ成功していない。

新たなビジネスモデルや新商品の開発や新技術は日本のそこかしこで生まれていると言って良いと思うが、それを採用したり投資したりする判断は経営陣である。それは大企業でもベンチャー企業でも同じであり、ベンチャー企業の場合は経営者である。成功しているベンチャー企業に限って言えば好きなこと得意なことで勝てる方法を考えている単純明快な経営者が多い気がする。

ベンチャー企業の経営者が余計なことや不得手なことを考えれば必ず経営は乱れる。

「What one likes one will do well」

古い海外の友人から半導体ビジネスとは違う儲け話に誘われた時に「俺は半導体のことしか分からないから」と　その誘いを断った時に友人から言われた一言。まぁ、激励の言葉だったと思う。

高名な経済評論家が「日本の若者は夢が持てない　と何かのTV討論会で言っていたが、それは日本の教育制度であり環境や国民性に起因するとも言っていた。「教育制度を変えなければならない、起業を促進する環境を整える必要がある　　」とか無責任なことを言っていたが、起業を目指している会場の若者たちの顔は「ふ～ん」てな顔をしているだけ。何をすべきかを具体的に示さなければ無責任である。ベンチャー企業といえばアメリカ西海岸を連想するが、そのベイエリアのベンチャーは世界で成功するためには先ずアメリカで成功しなければと考え、「独立しなければ男じゃない」と起業がお盛んな韓国ベンチャーは最初からアメリカ市場での成功を夢見る。

経済発展が目覚しい中国と言えば、海外に出なくとも中国国内で成功すれば大金持ちになれると考えて独立する。日本のベンチャー企業や独立を目指す若者（だけとは限らないが）はどうすればいいのか？　やはり、海外に目を向けるべきだと思う。

私はJASVAのセミナーで何度か講師をさせていただいたが、「半導体ベンチャーは海外に目を向けるべき」と常に伝えてきた。これは「海外志向」や「海外進出」の意味ではなく　「海外を知る」の意味で使ってきたつもり。世界を回ると「Made in Japan」が世界共通語だと気付かされるはずでる。我々は先人たちが作り上げてきた「Made in Japan」に感謝しなければならず、この言葉に誇りを持って後世に引き継いでゆかねばならないと思う。

JASVA理事の1人が「変質狂の登場を期待する」と言っていた。常識を打ち破れ！大胆な発想を！独創的なアイデアを！とか言われてもそうそう簡単に出来るものでもないが、偏屈でも変態でもなく変質狂だったら出来ることと理解した。これは名言と思う。画一化した教育を受け、同じ環境で育ち、非常識をよしとしない企業に勤め、脳細胞が働かないTV番組を見ていれば変質狂にはならない。自らが新たな環境を求め、世界の常識を知り　マスコミの言っていることを無条件に受け入れずにいれば、少しは変質狂になって世間が驚くアイデアが生まれる可能性は充分にある。起業された方も　起業を考えている方も常に矜持を持って世界に出てゆくことを切に願う。

▲JASVA10周年記念懇親会（2010年12月7日）

JASVA部会としては引き続き各種セミナーや委員会を継続してゆくが、新たなメンバーと共に今後は具体的な日本電子デバイス産業の復活戦略を提言してゆくつもりである。そして、NEDIAが中心となった[Made in Japan]で世界中を驚かせることが出来れば、これほど痛快なことはなく、それがNEDIAの宿命であり存在価値だと肝に銘じて活動してゆく所存。引き続きJASVA部会メンバーは勿論のことNEDIAの皆様にもご支援を賜りたく宜しくお願い致します。

日本半導体エンジニアリングネットワーク協会の10年、そして将来へ

NEDIA 理事／ JSENA 部会長／関西 NEDIA 副代表
セミリンクス　代表
和田　悟

はじまり

2002年11月18日11時30分に京都の竹田駅でS社のY社長と待合わせをした。これがはじまりであった。

目的は、Y社長との打合せを兼ねた会食。Y社長曰く「インターテックのプロジェクトが解散になった。折角多くの会社が集まったので、関西のY社長のS社、ゼン　オウルズ　ワイ　エムテクノロジーの3社でメンテナンス会社の団体を作りたいと思っている。セミリンクスに旗振り役をして欲しい」との事であった。

Y社長に「ゼン　オウルズ、ワイ　エムテクノロジーとこの様な事を会議したことがありますか？」と聞いたところ「電話で話をしたレベルで具体的な話をした事がない」と言う。

ここの場では、「セミリンクスとしてセミコンジャパンが12月に開催されるので、装置メーカーやデバイスメーカーなどに聞き取り調査をしてみる　事になった。セミコンジャパンで　各社の意見を聞いてみると、やはり、装置メーカーは否定的な意見が多く、デバイスメーカーは賛同する意見が多かった。

また、インターテックの佐藤社長にこの話をすると「インターテックも是非参加したい」となった（注記　S社は現在存続していない会社で有り頭文字のみとした）。

団体の設立に向けて

2002年12月12日にS社、ゼン　オウルズ、ワイ　エムテクノロジー、インターテックの発起人4社＋セミリンクスが集まり初めての会議を行った。

何度か会議を重ね、多くのメンテナンス会社が参加できる事を考慮して「協会」を設立することになった。

設立時の初期メンバーの会社の選択は、各社が知っているメンテナンス会社をホワイトボードにぎっしりと書き上げた。50社強が挙げられた。この内、技術を持ち、実績のある会社を選択し、発起人がこれら会社に声をかけることになった。ここで　発起人4社を含め15社が結集した。

まず、協会を立ち上げる為に準備委員会を設立した。準備委員会で協会を立ち上げる為の項目を洗い出し、そして行動。会長人事は、Y社長の「こう言った事をやるには、一番若いゼン　オウルズの古木社長が良い」の一声があり、全員が賛成し　ゼン　オウルズの古木社長が会長として決まった。

協会の名称は「日本半導体エンジニアリングネットワーク協会。略称としてJSENA（ジェイセナ）」とした。

▲和田 悟氏

JSENA 設立

最初に話が上がり、約8カ月後の2003年7月1日に任意団体日本半導体エンジニアリングネットワーク協会（以下JSENA）が誕生した。

JSENAの活動の根底は、半導体製造設備に関わるメンテナンス会社の認知度の向上、会員間のネットワークの構築、結束、そして相互交流である。

活動の始まり

1. ホームページ開設

一般向けと、会員向けの2種類を製作した。

会員向けホームページは、会員間の情報交換や各社の具体的な業務内容を掲載した。

2. JSENA 設立説明会

会員の増員対策として　設立説明会を大阪、東京で開催した。両会場では、メンテナンス会社、中古装置取扱会社、デバイスメーカー、メディアを含め計60社以上が参加し　会員増員につながった。そしてメディアにも紹介された。

3. 交流会

JSENA会員の交流の場として主体となるのが、交流会である。入会した会社は、自社で何が出来て　実績として何があるのか、プレゼンを行った。デバイスメーカーは、メンテナンス会社に期待する事など意見交換を行った。また　デバイスメーカーからは、JSENA会員にメンテナンスを依頼した結果、保全費が削減できたとの報告もされた。

4. 会社訪問

「メンテナンス会社がどの様な現場で仕事をしているのか見学したい」との意見から、会社訪問が始まった。東北地区、関東地区、関西地区、中国　四国地区、九州地区と分けて実施した。例として　東北地区は、2日間の日程で福島にある、会員の会社を3社訪問した。

5. 関連団体との意見交換

SEAJ、JEITA（小委員会）は、JSENAが設立した当初から意見交換会を開催してきた（**図1**）。内容としては、装置のメンテナンス、サードパーティの期待や課題、パーツ供給とい

図1　JSENA & JEITA（小委員会）意見交換会～幕張～

図2　個別商談会～京都～

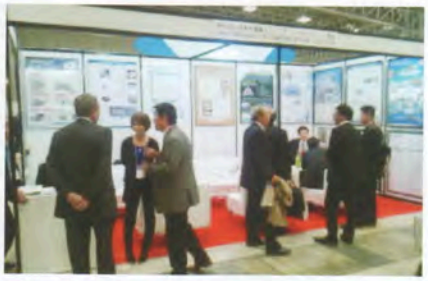

図3　セミコンジャパン出展～幕張～

った意見交換である。

また、入会していた会員の計らいで、福島県中小企業との交流会を開催した。

6. コスト検討会

デバイスメーカーにメンテナンス会社が訪問し　デバイスメーカーのリクエストに対し会員が何を具体的に出来るかプレゼンし　その後、工程毎に打合せを行う。必要に応じて現場確認を行い、お互いの業務につなげていった。

7　分科会発足

安全分科会、装置延命化分科会を立ち上げた。安全分科会は、SEAJの安全教育に展開した。装置延命化分科会は、部品対応が最終的に問題となりメンバー用ホームページの掲示板で対応する事にした。

8. 個別商談会

会員間の仕事を活性化する目的で　個別商談会を開催した（図2）。

9. セミコンジャパン出展

JSENAの認知度向上と　会員増加を目的として、セミコンジャパンに出展した（図3）。

任意団体からNPO法人へ

社会的信用の向上と法人格による銀行口座の開設を目的とし、社員総会の承認を得て　2006年10月1日にJSENAは任意団体からNPO法人に切り替えた。

新団体（NEDIA）への参画

2013年6月10日に産業タイムズ社を訪問、JASVA泉谷会長より「電子デバイスとして新団体を設立する。この新団体にJSENAも参加して欲しい」と正式に要請があった。「新団体にはJASVA、JAST会　JSENAを母体として200社以上の団体にし、将来は1000社の団体を目指し　現在の日本の電子デバイスを活性化したい」との話もあった。JSENAとしてこの話を持ち帰った。新団体への参画に対し幹事会で検討しその結果、理事3名が新団体設立準備委員会に参画する事にした。その後、理事会を開催し　新団体に参画する事のメリットが大きいと判断　2013年9月6日に臨時幹事会、臨時社員総会に提案し　新団体に参画の承認を得た。

NEDIAについて思うこと

2013年9月30日にNEDIAが誕生したが、まだまだ　よちよち歩きの状態である。

しかし　可能性は秘めている。

会員は、電子デバイスの会社が200社以上入会し、そして多くの業種が参画している。現在は、JASVA、JAST会JSENA、それに所属している各企業、思惑はいろいろ持っている状態である。そして今は「点」である。この「点」が「線」になった時には、大きな力となる。この「点」を「線」にするためには、議論も大事であるが、スピード感も重要である。間違っていれば、即修正をすれば良い。また　各企業は、待っているのでなく自ら行動する事がより重要になっていく。この時には、NEDIAも会員もより成長する。

将来に向けて

電子デバイスを見ていても日本復活にはならない。重要なことは、日本の産業のロードマップを作る必要がある。その柱の1つとして資源がある。シェールガスは、米国、カナダ等の海外からの輸入に頼るだけであるが、メタンハイドレートは日本が主体となり資源を産出できる。現在2つのやり方で進んでいる。1つは国が行っている海底から更に深く掘り進む方法と　もう1つは青山千春博士が中心になって行っている海底に塊となっているメタンハイドレートを採る方法である。わかり易くいえば　国は「砂金」を採る方法で　青山千春博士は「金塊」を採る方法である。誰が考えても「金塊」を採る方法が安価な投資で資源を採る事ができる。こういった所に国や企業が投資をし　早く資源大国日本を作るべきである。そして　資源が利益を産み出し　最終的に日本の企業の法人税を下げ産業の活性化を図ることができる。

今後の成長分野は、半導体技術を多く利用しておりNEDIAが得意とする分野である。そして　川上から川下で成り立っていることから　標準化～開発～量産も早くなる可能性を持っている。今できる事、短期でできる事、中長期でできる事のロードマップを策定し　それに向かって進んでいくべきである。

最後に

旧JSENAは、会員の横のつながりが非常に強い。これは、他の協会や団体には見られない現象である。今回、NEDIAに参画したがJSENA部会として会員の横のつながりをさらに拡大し　会員の業績向上につなげていきたい。この為には、どしどしJSENA部会に参加して頂ければと思っている。

NEDIA 発足と期待

NEDIA 理事／ JAST 部会長
（株）野毛電気工業　代表取締役社長　**佐藤 中則**

旧 JAST 会のこれまでの活動

NEDIA 発足に伴い、先行 3 団体の一員として JAST 会が参加させていただきました。これからも宜しくお願いいたします。

JAST 会の主たる目的は 会員相互の経営力研鑽と親睦を図ると共に、必要情報の調査研究を行い、業界動向 (市場動向 技術動向等) の共有化を図るべく、経済産業省、公正取引委員会、マーケットアナリスト、半導体メーカー等、リードフレーム以外の半導体に関係した業界の方々をお招きし、定期的な勉強会を実施してまいりました。

また、国内外のリードフレーム生産数を SEMI とのデータ交換により データ収集を図り　業界の生産動向を月次で把握し、メンバー各社での年度経営計画の予算設定や営業活動に役に立つよう 情報の共有化を図って参りました。

JAST 会 (日本半導体部品工業会) は、昭和 61 年（1986 年）4 月にリードフレーム生産に係るメーカーを中心に任意団体として発足しました。

▲新春のつどい　会長挨拶

JAST 会発足以前は日本半導体表面処理工業会として リードフレームのめっきに係る企業を主体に活動しておりましたが、参加企業の増加に伴い、日本半導体部品工業会として 改めてスタートし約 27 年間活動してきました。

▲佐藤 中則氏

思い起こしますと、JAST 会発足当時の日本の半導体業界は怒涛の勢いで生産数を増大させ、日本各地に生産拠点を増やし 更に半導体メーカー各社の海外展開に伴い、リードフレームメーカーも海外に生産拠点を展開する動きとなりました。この海外展開への動きが結果として日本国内産業の空洞化を加速してしまいました。

一方で、韓国、台湾が半導体生産の分野に積極的に参入し政府の支援の下、強力に投資の拡大化を図って来ました。

その結果、今日では韓国、台湾が 生産数、技術分野、価格競争すべての面でシェアを伸ばしてきました。

逆に、日本の半導体電子デバイスメーカーは、M & A、整理統合、撤退等により シェア低下の一途をたどっています。

現在、日本半導体産業が衰退の状況にあることは皆様の周知の通りです。

このような状況下、更に追い打ちを掛けるように 2008 年のリーマンショックにはじまり、欧州の債務問題、又中国経済の低迷、米国の財政デフォルト問題等が連続して勃発し、半導体を取り巻く国内環境は大変厳しい状況にあることを認識せざるを得ません。

しかし、一方で BRICs に代表される新興国や開発途上国の経済発展と共に中長期的には 世界的なエレクトロニクス、半導体需要は中身を進化させつつ拡大は続くものと考えられま

▲新春の集い（1）

▲新春の集い（2）

す。

したがって　今まで以上に世界的マーケットを考慮した情報収集と分析　各社独自の経営戦略が必要となってまいります。

NEDIA 発足と期待

世界の IT 産業の中　TV　PC、ケータイ（スマホ含）の 3 大製品で 大きく負け続けている日本丸ではありますが、個別分野では 日本の優位さを保っております。

具体的例として 今後に期待され 展望が見えるものとして液晶産業分野での 次世代有機 EL の開発や、燃料電池の技術分野での先行、MRAM での世界最先行の量産技術の確立等があります。

こうした個別の強みが、各業界バラバラに活動され、世界的 IT の成熟化が進行する中　電子デバイス全体として 次への方向性を見出していける戦略的組織が必要になってきており　今回 こうしたことを踏まえて「一般社団法人日本電子デバイス産業協会」（NEDIA）が発足し　日本のデバイス産業の羅針盤を示す機関として船出しました。

我々 JAST 部会も本 NEDIA 傘下で全体への関わりを得ていきたいと思います。

現状 IT 産業を含め　急拡大するであろうバイオ医療産業や航空機産業、次世代自動車産業、省　新エネ産業等、大きな拡大成長産業分野の展望が開かれており　未来を見据え、中長期展望に立ち　有機的連携を果たすことに大きな期待をしております。

NEDIA の組織は、従来の近未来デバイス全体をカバーする

▲ JAST 勉強会

統一組織から　今後はデバイスのユーザー 又はアプリ出口となる 自動車、電機、航空、医療、ロボット等のセットメーカーを加えた会員組織でトータルカバーを目指しており、分科会機能、地域別活動を通じて大きな活動母体となるものと期待します。

このような環境の下、我々 JAST 部会も本協会の分科会として、活動に積極的に参画していく所存です。

また　従来から活動の一部であります 生産統計データの収集と共有化についても引き続き継続していきたいと思っております。

本協会の皆様と共に、業界の維持発展に尽力傾注してまいりたいと思いますので宜しく ご支援の程お願い申し上げます。

表 1　JAST 部会最近の勉強会

1　泉谷渉氏／産業タイムズ社代表取締役社長	1 1「どうなる世界の半導体！」（スマートフォンで復活の日本勢、東日本大震災でニッポンの素材力に注目）
	1-2「環境エネルギー革命は、半導体の世界を変える！」（パワーデバイス、太陽光、二次電池、LED がニッポンの宝物）
	1-3「電子ディスプレー世界攻防戦！」（次世代テレビをコアに半導体、液晶、PDP、有機 EL の投資活発化）
	1-4「医療産業の急発展と IT　半導体へのインパクト！」
	1-5「半導体設備投資の方向性が変わっていく！」（ファンドリーバトル時代が到来　新アプリの爆裂も期待）
2　津田健二氏／国際技術ジャーナリスト	2-1「半導体産業の展望！」
3　小岩一郎／関東学院大学工学部	3-1「高密度実装技術に貢献するめっき技術」
4　加藤凡典氏／ AiT 代表取締役	4-1「Apple 製品からみるモジュール時代の実装ビジネス」
	4-2「半導体業界の動向と見える Jisso、見えない Jisso」
	4-3「半導体後工程におけるものづくりの進化！」（韓国の技術開発動向、中小企業の動きに注目）
	4-5「Tablet PC、ウルトラブックの実装技術から見える今後の課題」
5　国司洋介氏／日本知的財産協会	5-1「特許情報による、他社の技術動向の解析！」（開発企画段階での特許情報の活用）
6　山本義継／ BNP PARIBAS セミコンダクターアナリスト	6-1「半導体業界の見方！」
7　石田のり子氏／ Granage LLP 代表	7-1「東アジア地域における LED 照明産業の動向！」
8　伊藤正浩氏／ EEJA 技術部	8-1「次世代製品に対応する貴金属めっきプロセス技術！」
9　川井秀之氏／日本アイ　ビー　エム株式会社	9-1「スマーター　シティー」（震災後、改めて考えるスマートグリッドの展開）
10. 大塚寛治氏／明星大学	10-1「これからの半導体技術と実装技術について！」

一般社団法人
日本電子デバイス産業協会（NEDIA）
キックオフ

NEDIA 事務局

（一社）日本半導体ベンチャー協会（JASVA）は、平成25年9月30日東京都文京区の林野会館にて開催された臨時社員総会で、名称を（一社）日本電子デバイス産業協会（Nippon Electronic Device Industry Association 略称 NEDIA）とする事を決めました。そして、その名にふさわしく幅広い事業を展開する事、会員は電子デバイス産業及び関連産業全般から募る事を決めました。

総会終了後、NEDIA キックオフが盛大に開かれました。来賓には、経済産業省商務情報政策局デバイス産業戦略室長の宮崎貴哉様を始め **表1** に示す通り多数の方をお招きしました。最初に齋藤昇三会長（（株）東芝常任顧問）が NEDIA キックオフの挨拶を行い、ついで主賓の宮崎室長にお祝いのお言葉を頂き、そして副会長の岡本裕氏（ノニー（株）業務執行役員）の発声で乾杯となりました。琴の調べが流れる中しばし歓談となりましたが、その途中で来賓の方々から数々のお祝いの言葉を頂きました。最後に北村隆幸理事（メテック（株）代表取締役）が閉会の挨拶をされ、会は盛況のうちにお開きとなりました。

キックオフは100名を超える参加者を迎え今後の NEDIA 発展が大いに期待されるものとなりましたが、その為にはこれからが勝負であり多大な努力が必要だと思っています。皆様の絶大なるご支援をお願い申し上げます。

表1　NEDIA キックオフ来賓リスト（敬称略、順不同）

宮崎貴哉	経済産業省商務情報政策局デバイス産業戦略室長
中川洋一	SEMI ジャパン代表
井部和之	（一社）電子情報産業協会（JEITA）電子デバイス副部長
丸山利雄	（一社）日本半導体製造装置協会（SEAJ）会長
山本治彦	（一社）日本電子回路工業会（JPCA）副会長
大滝昌平	（一社）日本電子回路工業会（JPCA）常務理事
栗原正英	（一社）日本電子回路工業会（JPCA）事務局長
宍戸正人	（一社）日本電子回路工業会（JPCA）事業部長
大西利樹	日本半導体商社協会（DAFS）会長
開田　隆	日本半導体商社協会（DAFS）事務局長
森泉修一	日本半導体商社協会（DAFS）特別顧問
牧本次生	（一社）半導体産業人協会（SSIS）理事長
内海　忠	（一社）半導体産業人協会（SSIS）事務局長
金　南局	大韓民国大使館二等書記官

▲キックオフ懇親会

▲経済産業省　宮崎 貴哉氏

▲ NEDIA 会長／（株）東芝　齋藤 昇三氏

▲NEDIA 副会長／ソニー（株） 岡本 裕氏

▲NEDIA 副会長／（株）産業タイムズ社 泉谷 渉氏

▲SEMI ジャパン 中川 洋一氏

▲NEDIA 副会長／（株）インターテック 佐藤 和樹氏

▲（株）オプトクリエーション 飯田 準一氏

▲（株）デンソー岩手 窪小谷 良一氏

▲NEDIA 顧問／ザインエレクトロニクス（株） 飯塚 哲哉氏

▲NEDIA 理事／メテック（株） 北村 隆幸氏

■NEDIA 会員リスト（会員種別、五十音順）2013 年 11 月 20 日現在

■正会員

アーズ（株）
（有）アイ　ケー　エム
（株）アクセル
アスカコーポレーション（株）
（株）アストロン
（株）アセット　ウィッツ
（株）アドバンテスト
アポロ電子（株）
アライアンス　コア（株）
有明技研（株）
アリストエレクトロニックデザインアソシエイツ（有）
（株）アルファテック
（株）安藤　間
（有）イーエイチクリエイト
石原ケミカル（株）
インターチップ（株）
（株）インターテック
（株）ウエキコーポレーション
宇部マテリアルズ（株）
（株）エイアールテック
ATS ジャパン（株）
ＳＨマテリアル（株）
エスティケイテクノロジー（株）
（株）エスユーエス
（株）エノモト
エムシステム（株）
（株）エルテック
（株）ＯＭＴ
沖エンジニアリング（株）
オメガセミコン電子（株）
（株）カツマタテクニカルトランスポート
カナン精機（株）
（株）久世ベローズ工業所
（株）くまさんメディクス
クリテックサービス（株）
ケイレックス　テクノロジー（株）
（株）神戸製鋼所
小島化学薬品（株）
（株）後藤製作所
コネクテックジャパン（株）
（株）サイバークラフトソリューション
櫻井精技（株）
（株）産業創成アドバイザリー
（株）サンユー機工
（株）ジー　キューブ
シーズシー（有）
（株）シーデックス
（株）シェアード　ソリューション　サービス
ジェイエムテクノロジー（株）
（株）JCU
ジ　エス　エム　シー　ジャパン（株）
ジオマテック（株）
（株）シキノハイテック
（有）シグマトップ
（株）システム LSI センター
（株）シップス
神鋼リードミック（株）
（株）シンセシス
（株）スズキ
（株）セミコンクリエイト
（株）セミテックインターナショナル
ゼン　オウルズ（株）
センサーコントロールズ（株）
（株）センス
第一通信工業（株）
大同特殊鋼（株）
タガミシール工業（株）
（株）タキモト
タキロン（株）高機能材事業部
タナーリサーチジャパン（株）
（株）ダン　タクマ
（有）ディアックス
TEG サービス（株）
（株）テクノアクセルネットワークス
テクノアシスト（株）
（株）テラプローブ
（株）東芝　セミコンダクター＆ストレージ社
東芝マイクロエレクトロニクス（株）
（株）東設
東北江南（株）
（有）東北バリュー企画
（株）トプスシステムズ
（株）西村ケミテック
日電精密工業（株）
日広鋼機（株）
日総工産（株）
日本 EDA ベンチャー連絡会
日本エレクトロプレイティング　エンジニヤース（株）
日本高純度化学（株）
日本ファインテック（株）
（株）野毛電気工業
（株）パターンアート研究所
パナソニック（株）AIS 社
日立金属（株）
ファーストゲート（株）
ファルコン電子（株）
（株）ブイ　テクノロジー
冨士加工紙（株）
（有）フジテクニカル
古河精密金属工業（株）
古河電気工業（株）
（株）マクニカ
（株）マルチタスク　カンパニー
（株）ミズサワセミコンダクタ
三菱伸銅（株）
三菱電機メテックス（株）
（株）メガチップス
メテック（株）
（株）メムス　コア
（株）吉川アールエフセミコン
（株）リコー電子デバイスカンパニー
リソテックジャパン（株）
（株）リニアデザイン
凌和電子（株）山形工場
REVSONIC（株）
（株）ロジック　リサーチ
六甲電子（株）
（株）ロムテック
（株）ワイエム　テクノロジー

■賛助会員

鹿児島県産業立地課
（公財）北九州産業学術推進機構　半導体技術センター
（公財）九州先端科学技術研究所
九州半導体　エレクトロニクスイノベーション協議会
熊本県
（株）産業タイムズ社
（株）セミコンダクタポータル
SEMI ジャパン
（一社）中部産業連盟
NPO 法人　日本情報技術取引所
野村リサーチ　アンド　アドバイザリー（株）
（財）福岡県産業　科学技術振興財団
マッコーリーキャピタル証券会社
（株）UBIC パテントパートナーズ

■個人会員　82 名

■NEDIA スケジュール

2013 年 9 月 30 日（月）	JASVA 臨時社員総会および NEDIA キックオフ懇親会	林野会館
2013 年 10 月 24 日（木）	JASVA Day 九州セミナーおよび九州 NEDIA キックオフ交流会	北九州学術研究都市
	「HORIBA の方向性　半導体、エネルギー分野などへの事業展開」 （株）堀場製作所　理事　半導体　科学事業戦略室　ジュニアコーポレート　オフィサー 佐竹 司 氏 「半導体ベンチャーの展開と医療への取り組み」 ファーストゲート（株）　代表取締役社長　土肥 猛 氏 「半導体は新アプリ創出で 40 兆円マーケット拡大」 NEDIA 副会長／（株）産業タイムズ社 代表取締役社長　泉谷 渉 氏	
2013 年 11 月 20 日（水）	関西 NEDIA キックオフセミナーおよび懇親会	京都テルサ
	「関西のエレクトニクス　エネルギー技術分野のポテンシャルと近畿経済産業局の取り組み」 近畿経済産業局　地域経済部　次世代産業課長　西野 聡 氏 「世界トップシェアを持つソニーの CMOS センサーの事業戦略」 ソニー（株）　業務執行役員 SVP　デバイスソリューション事業本部　イメージセンサ事業部長　上田 康弘 氏 「日本の電子デバイス産業の将来性と東芝の半導体戦略」 NEDIA 会長／（株）東芝常任顧問（前副社長）　齋藤 昇三 氏	
2013 年 11 月 27 日（水）	第 1 回 JAST 部会勉強会	お茶の水めっきセンター
	「電子デバイス産業の復活！！～ NEDIA の持つ重要性～」 NEDIA 副会長／（株）産業タイムズ社 代表取締役社長 泉谷 渉 氏	
2013 年 12 月 11 日（水）	東北 NEDIA キックオフセミナーおよび懇親会	東北大学
	「汚染やダメージをいっさい与えない超高生産性製造装置による半導体デバイス製造」 NEDIA 副会長／東北大学未来科学技術共同センター シニアリサーチフェロー　大見 忠弘氏 「デンソーの技術開発とカーエレクトロニクス」（株）デンソー岩手　取締役社長　窪小谷 良一氏 「電子デバイスの構造変化と東北エリアの役割」 NEDIA 副会長／（株）産業タイムズ社 代表取締役社長　泉谷 渉氏	
2014 年 1 月 22 日（水）	新春セミナーおよび新年会	日本教育会館
2014 年 1 月 23 日（木）	第 34 回高周波　アナログ半導体技術セミナー	京都テルサ
	「電磁波を用いた無線電力伝送と　世界の無線電力伝送の研究開発状況」 京都大学　生存圏研究所　教授　篠原 真毅 氏 「EV 用ワイヤレス給電の動向と課題」 早稲田大学　環境総合研究センター　客員上級研究員　高橋 俊輔 氏 「ワイヤレス給電 Qi 規格の現状と今後」 フィリップス エレクトロニクス ジャパン知的財産　システム標準本部 システム標準部長　黒田 直祐 氏	
2014 年 2 月 24 日（月）	第 2 回 JAST 部会勉強会	お茶の水めっきセンター
	「2014 年以降の半導体業界の動向！！（仮題）」 BNP パリバ証券（株）シニアアナリスト　山本 義継 氏	

Information

【会員数】

2013 年 11 月 20 日現在　215

正会員	119
賛助会員	14
個人会員	82

【会員種別および会費体系】

H25 年度（2013 年 4 月～ 2014 年 3 月）新会員を募集中。年会費は以下の通りです。

会員種別	会員の要件		会費（年額）
正会員　A）	三大証券取引所　上場企業	24 万円	
正会員　B）	新興市場　上場企業	12 万円	
正会員　C）	未上場企業	資本金 1 億円以上	12 万円
		資本金 1,000 万円以上	8 万円
		資本金 1,000 万円未満	3.6 万円＊
賛助会員	大学　公益団体　地方自治体　行政　金融など		8 万円
個人会員	教育関係者　メディア　OB など	1.2 万円＊	
特別会員	支援者		別途

正会員　生産　販売を行う企業　団体で　上（左）記の要件により A）　B）　C）に分かれます。
賛助会員　正会員以外の企業　団体です。
個人会員　大学等の教育関係者　企業 OB 等で　個人で入会いただくものです。
特別会員　当協会を特に支援していただける会員で　会費等は別途ご相談の上決定します。
海外企業　団体の日本法人は　会費を 8 万円とします。ただし　上場会社の子会社は 12 万円とさせていただきます。
入会金　1 万円（ただし＊は免除）
初年度会費は入会承認後の加入月によって月割りにて請求書を送付いたします。
（例　10 月入会の場合は　初年度は 10 月から 3 月までの 6 ケ月分となり　左記年会費の半分となります。）

お問い合わせ・入会申込先

（一社）日本電子デバイス産業協会事務局
〒 101-0025　東京都千代田区神田佐久間町 2-13　竹内ビル 202
TEL（03）5823-4465　　FAX（03）5823-4475　　E-mail　info@nedia.or.jp　　URL　http://www.nedia.or.jp

【役員名簿】　2013 年 11 月 1 日現在　五十音順

代表理事（会長）	齋藤　昇三	（株）東芝　常任顧問（前 執行役副社長）
理事（副会長、企画委員長）	泉谷　渉	（株）産業タイムズ社　代表取締役社長
理事（副会長）	大見　忠弘	東北大学未来科学技術共同研究センター　シニアリサーチフェロー
理事（副会長）	岡本　裕	ソニー（株）業務執行役員 SVP、デバイスソリューション事業本部長
理事（副会長、JASVA 部会長）	佐藤　和樹	（株）インターテック　代表取締役
理事（副会長）	佐藤　光	アーズ（株）　代表取締役
理事（副会長）	西口　泰夫	（株）HANDY　代表取締役（元 京セラ（株）代表取締役社長）
常務理事（事務局長）	周藤　仁吉	（一社）日本電子デバイス産業協会
理事（九州 NEDIA 副代表）	石井　正明	アサヒエンジニアリング（株）　代表取締役社長
理事	小篠　隆宏	ケイレックス　テクノロジー（株）　代表取締役社長
理事	押部　弘	（株）東設　代表取締役社長
理事（東北 NEDIA 代表）	川添　良幸	東北大学未来科学技術共同研究センター　名誉教授
理事	北村　隆幸	メテック（株）　代表取締役社長
理事（九州 NEDIA 代表）	櫻井　一郎	櫻井精技（株）　代表取締役社長
理事（JAST 部会長）	佐藤　中則	（株）野毛電気工業　代表取締役社長
理事（東北 NEDIA 副代表）	千葉　芳弘	日総工産（株）エンジニアリング事業部　部長
理事（関西 NEDIA 代表）	南部　修太郎	（株）アセット　ウィッツ　代表取締役
理事	松本　祐教	（株）トプスシステムズ　代表取締役社長
理事（九州 NEDIA 副代表）	丸田　秀一郎	（財）北九州産業学術機構半導体技術センター　センター長
理事	南　洋一	リソテックジャパン（株）　代表取締役
理事（関西 NEDIA 副代表、JSENA 部会長）	和田　悟	セミリンクス　代表
監事	工藤　敬治	（株）野毛電気工業　統括マネージャー
監事	詫摩　武裕	元 三菱 UFJ キャピタル（株）　常務執行役員
顧問	飯塚　哲哉	ザインエレクトロニクス（株）　代表取締役会長
顧問	釜原　紘一	元 三菱電機（株）　半導体マーケティング部長
顧問	河崎　達夫	（株）システム LSI センター　代表取締役
顧問	志村　幸雄	技術ジャーナリスト、金沢大学講師（元（株）工業調査会　代表取締役社長）
顧問	垂井　康夫	東京農工大学　名誉教授

【事務局】

事務局長	周藤　仁吉（併任）
事務局次長	小林　開司

NEDIA MAGAZINE
（一社）日本電子デバイス産業協会事務局
2013 年冬号（No.01）

2013 年 11 月 20 日発行
発行人　齋藤昇三
編　集　松下晋司　　堀ゆかり
制　作　（株）グッドフューチャー
発　行　（一社）日本電子デバイス産業協会事務局
〒 101-0025　東京都千代田区神田佐久間町 2-13
竹内ビル 202 号室　TEL：03-5823-4465

No.01

NEDIA

一般社団法人 日本電子デバイス産業協会

http://www.nedia.or.jp